

平成 30 年度まちづくり座談会における質問・要望事項と回答

■ 鮎貝地区：8月8日（水）午後7時30分～9時

参加者数 59名

Q. まちづくりアンケートの回答者の約7割が60代以上だった。どの年代を中心にまちづくりを進めていくのかを考えたときに、それはやはり30～50代の子育て世代だと思う。そう考えた場合、アンケートの意見に対しては年代によって大きく回答が変わってくると思う。町としては、どの年代を中心としてまちづくりを進めていく予定なのか。

A. アンケートについては全戸配布させていただいたが、各世帯での回答ということで、回答いただいた方の年代層が高かったのかもしれない。どこをターゲットにまちづくりを進めていくかと言われれば、町として当然すべての年代についてどのようにしていくかということを考えて進めていく。

また、町を今後も存続していくために、急激な人口減少に歯止めはかけられないとしても減少率はなるべく緩やかにしていきたいということで、人口減少対策は最優先にしていかなければならないと考えている。なお、人口減少には2種類あり、一つは自然減であるが、毎月の町報をご覧いただいてもわかるように、生まれてきた子どもの数と亡くなられた人の数を比べると、その点が毎月明らかになっている。そしてもう一つは社会減であり、転入者を増やして転出者を減らしていくためにはどのようなことをしていけばよいのかということ、一つひとつ掘り起こしながら具体的な施策を進めていく必要があると思っている。

人口減少の緊急対策として、実際にさまざまな施策をとらせていただいているわけだが、例えば自然減に対する施策としては、不妊治療の助成、第3子以降の保育料無償化、結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援などを進めている。また、社会減に対する施策としては、子育て世帯の住宅整備に対する支援や金融の支援、学校教育の充実、移住のサポートを進めている。これらが今後の施策の中心になっていくと思うが、総合計画ではすべての世代の方々が白鷹町で幸せに暮らせるように何をしていくべきか、皆さんから意見を頂戴しながら第6次総合計画の中で進めていきたいと考えている。

Q. 川東地区にはスーパーやコンビニといった商業施設が充実していると感じるが、川西地区には何もない状況なので、町で商業施設を整備してほしい。

A. 今後のまちづくりにおける一番のポイントは、定住をして、そこでの暮らしをどのように成り立たせるのかということだと考えている。また、高齢化が進むと買い物をはじめ生活のあらゆる部分で行動範囲が狭まってしまうということで、例えば蚕桑地区では買い物支援の実証実験に取り組んでいるが、いずれにしても厳しい状況である。

そして、これから人口減少もますます進行する中で「職住近接」ということが当然のことながら出てくると思うし、買い物ができる空間や場所を確保するということが大切で、住みよいまちづくりに必要なことであると承知している。この件については、町長から具体的な実効性のある取り組みについて指示を受けており、まだそれらについて説明できる青写真は描けていないが、具体的なものへと実践できるようにさまざまな情報を収集しているところであるので、地域の皆さんからの理解を得ながら手続きを踏んでいきたいと考えている。

また、スーパーやコンビニを建てることに関してはさまざまな制度があり、町が行なうということも可能である。しかし、現在、商店を運営されている方もいらっしゃるので、この件に関しては相当な話し合いをしながら方向性を探っていく必要がある。

また、川西地区についても、同じく商売をされている方がいらっしゃるということも念頭に置いて取り組んでいかなければならないので、あらためてそのような状況になった際には、地域の皆さんと十分話し合いをさせていただきながらご協力いただく形になると思う。

なお、コンビニ等の経営を行政が行うということではできないので、その際は地域の皆さんとともに方向性を見出していきたい。

Q. 白鷹町の保育園は第2土曜日が休園になっているが、その休園の日に両親のどちらも仕事が入ってしまうということがあり、そのときは子どもをどこに預けたらよいのか非常に不安な気持ちになることがあった。町の方針として、月1回だけ休園にするということは良いことだとは思いますが、親として不安な気持ちになるという声が聞こえてくると、白鷹ではなく長井や山形の方が良いという思いが出てくる人がいないとも限らない。

また、子育て支援センターも土曜日が休館で遊ぶことができないため、町外に遊びに行くということも多くあり、その部分に関しては子育て世代にとってマイナスになっているのではないかと思うので、検討いただきたい。

A. 保育園及び子育て支援センターについて、毎週土曜日に利用できるという体制が整っていないという点ではご不便をおかけしている。なお、ファミリーサポートセンターについては土曜日の利用もできることから、保育機能が全く働かない状況ではないということをご理解いただきたい。ただしこのサービスについても、子どもの面倒を見ることができるという人と、サービスを利用したいという人に登録いただき、子どもの面倒を見ることができるという人の自宅等を利用して子どもを預かることを前提にしているが、最近の状況を見ると子育て支援センターを活用した事業になりつつある。そのような状況もあるため、頂戴した意見については、今後どのような形で取り扱いをしていけるのか検討していきたい。

また、子育てサービスをどれだけ利用しやすくPRしているかについては考えていかな

ければならず、働く親を支援する体制について事業を深めていくことも考えていかなければならないと思っている。

Q. 消防団員の運転免許について、平成 30 年度から、消防庁による制度で準中型免許を取得している団員が不足している消防団への支援があると聞いた。平成 29 年の 3 月以降に免許を取得した団員は自動車ポンプ及び積載車の運転ができないわけだが、団員不足が深刻化しているとはいえ、消防のために実費で免許をとってきてくれとは言えない。そこで、町としてはそのような国の制度を利用する考えはあるのか聞きたい。

A. 現時点においては、団員の方々の免許の状況を踏まえて各地区消防団ごとに対応していただいていると認識している。ただし、将来的には準中型免許のような消防車両を運転するために必要な免許の取得について、近隣市町の対応も含めて前向きに検討していきたい。なお、今までの消防車両、特殊車両の運転等について、車種等については国から指示されたものを導入している。

ただし、消防団員がその車両を運転する場合において、人口減少あるいは高齢化等の中で、緊急時に車両を運転できないという実態があるということで、総務省に報告させていただき、現在、2つの点から改善に向けて動いている。1点は、免許の更新などに対する助成。もう1点は、技術的な改良によって、普通免許でも操作できるような特殊車両に変えていくということ。後者については具体的に自動車メーカーと消防庁、総務省で動いており、話を聞くところによるとできるだけ早い時期に自治体の特殊車両に導入されるようである。今後とも、安全で機動力のある消防車両等の運転ができるように、町でも引き続き国や県に対して動いていきたい。

Q. 町内各所に屋外拡声器が設置されているわけだが、西日本豪雨災害の際は避難指示の放送が鳴ったらしいが、大雨によって聞こえなかったようだ。町の屋外拡声器から聞こえる放送については、日中でも内容が聞き取りにくい状況であるが、町としてはどのような対策をとっていかうと考えているのか。

A. Jアラートだけでは周知が徹底しないということに関しては、以前から指摘を受けている。そこで、一つの解消策として「緊急メール配信サービス」を開始した。これは、個人で所有している携帯電話またはスマートフォン、パソコンから登録いただくと、緊急速報をしている内容がわかるというものであるので、ぜひご利用いただきたい。

また、機能を補完するという意味で個別受信機の導入についても検討を進めているところであるが、電波の状況が思わしくないということもあり、これらを整備するにも環境の整備が必要になる。ただし、例えば携帯電話等を所有していない高齢者の方々に対する対策という点からも、引き続き制度的なものと費用対効果の問題等も詰めながら前向きな検

討を進めている。

Q. スポーツ公園の駐車場で、イチョウの木の根っこが舗装から約 10cm むき出しになっていて危険なところがあるので、木の伐採及び抜根をお願いしたい。また、その近くに穴が開いていて危険なところもあるので、塞いでほしい。

A. スポーツ公園については、通常は管理人が環境整備しているわけだが、町まで報告が上がってきていないかもしれないので、まずは現地確認させていただいて安全対策をとっていききたい。

Q. まちづくり複合施設の建設や新荒砥橋の工事が進んでいるようだが、どのような形になるのかなどの情報が流れてこないの、ホームページ等で情報を発信してほしい。

A. まちづくり複合施設については、雪が解けた今年の 4 月以降に基礎の工事を再開し、6 月から建物の建方工事を始めた。約 2 カ月が経過し、ようやく形が見えてきたので、今後ホームページやフェイスブック等で進捗状況を公開していきたいと考えている。なお、現在は図書館を予定している建物の構造の部分が立ち上がったところであり、役場の方については構造の建方を 11 月の頭くらいで終了し、内装の方へ移っていく予定である。

新荒砥橋については県の事業ということもあるので、県の担当者とも調整をさせていただきながら情報公開について検討させていただきたい。現在は、橋脚については 5 基できている状況であり、川の中に立つ P5 と呼ばれる橋脚が今年度中にできる予定である。また、橋台についても荒砥側はできてきている状況であり、鮎貝側についても今年度中にできるということを知っている。なお、予定通り平成 32 年度完成予定ということを知っている。

Q. 人口減少によって発生することについて心配している。25 年後には現在の人口の 3 分の 2 になる推計となっているが、そうなった場合に今の鮎貝地区で行われている制度などを同じように行なっていくことはできないと思う。また、これを地区の問題だから地区で考えてくれと言われても難しいと思うので、地区を維持していくためにどのような検討が必要なのかということ、町も一緒になって考えなければいけないのではないかなと思う。

A. 人口減少が起きると、まずは生産、販売、消費が少なくなり、それによって活力が失われる形になる。どこの自治体でも人口減少は進んでおり、2020 年の東京五輪が終われば、東京ですら人口増があり得ないという予想になっている。

そのような状況の中、今後日本の人口はトータル的に減っていくということを念頭に置きながらまちづくりを進めていく必要があるということで、町民の皆さんと一緒に人口減少に対応できるようなまちづくりを目指していきたい。

Q. 人口が減少する中で、お金を稼いで税金を払う生産年齢人口がさらに減るということが全国的に広がり、その結果、税収が減るという事態が起きている。人口が3分の2になって、町として使うお金がそのまま3分の2になるということにはならないと思うが、町として使えるお金が減ってしまった場合の行政サービスに不安を感じている。税収について何かしらの対応をするということは難しいことだと思うが、町としてしっかり将来を見据えた考えを持ってほしい。

A. 人口減少が進めば間違いなく税収減ということになるし、今のルールのままだと地方交付税も減少するというので、財政規模も小さくなることは間違いない。そのような状況で、いかに効率良く、町民サービスを低下させないようにしていくかということが町の大きな課題であると認識している。

Q. 地域の子どもたちが高校を卒業するタイミングで町を出てしまう。高校を卒業するまでにどのようにして地域に愛着を持っていただくかは地域のがんばり次第である。併せて、荒砥高校に対するサポートについてもがんばっていただきたい。

A. 地域の子どもたちが少ないという中で、荒砥高校のみならず置賜のほとんどの高校で定員割れが続いているという状況である。荒砥高校では、80人という定員に対し54人の入学を2年連続で下回った場合は1クラスになるということになっており、今年度に関しては47人の入学ということで、その実態については受け止めなければならない。

そこで、魅力のある学校づくりはどういうものかと考えたときに、子どもたちが入学試験の願書を提出する際に、「あの高校に行ってみたい」「あの高校で学んでみたい」と言ってもらえるような学校づくりが大事だと思う。県立高校であるので、町としてできることに限界はあるが、例えば荒砥高校の吹奏楽部は非常に優秀な成績を収めているし、硬式テニス部も力をつけてがんばっており、そういった活躍が町の励みにもなるので、町としてもできる範囲で応援を続けていきたいと考えている。

また、雇用の面において、白鷹町には仕事がないという声が聞かれるが、町内において製造業のほとんどの企業で募集をしても人がこないという状況になっている。原因はさまざまあると思うが、現在、町報の裏表紙において町内企業で働く若者を紹介しており、その中で町内の企業についても少し紹介させていただくことで募集のきっかけづくりも行っている。なお、町内には良い企業がたくさんあるので、皆さんからもぜひPRにご協力いただきたい。

Q. 中丸ため池については、平成25、26年と続いた豪雨災害により埋まってしまったわけだが、八幡地区の住民の皆さんは池が今後どうなるのか心配していると思うので、

中丸ため池に対する現在の町の考えを教えてください。

A. 中丸ため池については平成 25、26 年の豪雨災害によって満砂状態になってしまった。そんな状況の中、昨年、底樋が機能不全になっていることがわかり、なんとか開栓できないかということで試みたが、思った以上に深いところに底樋があるということがわかった。しかし、図面など詳しいものがなかったため、開栓するに至らなかった。また、実際に底樋を直すとなると、相当な経費が発生するという試算などもしたが、実際に財源なども含めて検討しなければならないということで、昨年については保全的な対応はできなかった。

なお、今後に向けては、財源を確保するという部分でもいろいろと事業を調べており、今のところため池を安全に廃止していくという方向で、農林担当での廃止ため池事業を進めてはどうかということで、今年度から調査などに入るということを知っている。その結果などを踏まえながら今後どのようにしていくかについて考えていきたい。

Q. 役場庁舎前にある鷹のモニュメントは、まちづくり複合施設の完成に合わせて白く塗ってみてはどうか。

A. 鷹のモニュメントについては、吉野石膏の社長が本町の出身であるということで、町誕生 30 周年のときに町のシンボルになるようなものを庁舎の前にとということで寄贈いただいたものである。なお、今回の建て替えをさせていただく段階で、吉野石膏に出向いて感謝の気持ちとともに移動が生じることについて説明させていただいた。その際、相手側からは町で自由にして結構ということでお話いただいたので、まずは移転について検討しなければならないと考えている。ただし、色を染めるかどうかについては、有名な方の製作品であるので、それに色を付けるのは冒瀆するものではないかと思う。そのため、現状の中で、町のシンボルとして恥ずかしくないような場所に移転をしながら残していきたい。